

全教委連第217号
令和2年1月10日

文部科学省初等中等教育局
参事官（高等学校担当）様

全国都道府県教育長協議会
会長 藤田裕司

「高校と地域をつなぐ人材の在り方に関する研究会」に対する意見について

高校生が将来の社会を担う人材へと成長していくためには、地域やテーマ型のコミュニティ等とつながることは重要なことであり、モデルケースや全国の事例に学びながら、地域とともにある学校づくりを推進していくことが必要である。

そのためには、「高校と地域をつなぐ人材の在り方に関する研究会」での議論や、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の成果や課題等を検証した上で事業を構築していく必要があることから、以下のとおり意見を申し上げる。

記

1 生徒の成長・地域の変化とコーディネート機能の役割について

○ 仕組みづくりに関する意見

- ・ 高校を取り巻く環境、教育課程、生徒の意思や保護者のニーズ等により、各学校において必要とされるコーディネート機能には、質・量ともに大きな差異があることを十分に考慮の上、地域の実情に応じた弾力的な運用が可能となる仕組みづくりが必要と考える。

○ 資料上の表記に関する意見

- ・ 資料4ページの右下の囲みにある「学びと地域貢献を両立する適切な課題設定」については、地域だけの役割ではなく、高校と一緒に適切な課題を設定する必要があると考える。「高校と地域をつなぐ人材の在り方に関する研究会」の第2回会議において、高校側の「コーディネート人材A」と地域側の「コーディネート人材B」は車の両輪のごとく

両者がともに必要であり、両者がその役割を果たしていくという議論を踏まえた検討をしていただきたい。

- ・ 資料4 ページにおいて、「高校におけるコーディネート機能」と「地域におけるコーディネート機能」のそれぞれで行われる生徒の活動は、最終的に生徒の中で一つの課題意識となって学びや活動につながっていくことを示す必要があると考える。例えば、「授業等で地域課題解決に向け実践」「自身で地域にかかわるプロジェクトを企画・運営」「大人を巻き込んでプロジェクトを企画・運営」を点線などで囲むなどが考えられる。
- ・ 資料6 ページの中ほどに「意志あるキャリア実現」とあるが、「意志あるキャリア選択」が適切な表現であると考ええる。

2 コーディネート機能の充実に向けた今後の方向性について

○ 仕組みづくりに関する意見

- ・ 協働支援体制の構築にあたっては、地域の実態に応じて、複雑化した組織とならないよう熟慮し、実効性のある体制づくりを進めていただきたい。
- ・ 全国規模の協働支援体制については、組織構成、役割、費用負担等が明確ではなく、また、現在の各都道府県の実況には大きな差があることから、構築にあたっては、各都道府県の実況を踏まえた十分な調査研究をしていただきたい。
- ・ 高校の所在地が必ずしも生徒にとっての「地域」とは限らないことから、「社会」全体を高校生にとっての「地域」と捉え、それを踏まえた連携体制の構築をしていただきたい。
- ・ 地域について連続的に学ぶため、また、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」において、小・中学校もコンソーシアムの構成員となっていることから、小・中学校で活動しているコーディネーターと連携・協働できる仕組みづくりを調査研究していただきたい。

○ 財政支援に関する意見

- ・ コーディネーターの配置にあたっては、雇用を可能とする条件整備や身分保障等、その役割に見合った処遇が確保できるよう、必要な財政措置をお願いしたい。
- ・ 教職員のコーディネーター的資質の育成やコーディネーターとなる人材の養成・育成にあたっては、長期的視野に立ち、計画的に取り組むことが必要であると考ええる。そのため、国において人材の養成・育成に必

要な財政措置をお願いしたい。

- 地域連携担当教職員等の配置に当たっては、働き方改革の観点からも、教職員に新たな負担が増えることがないように、教職員定数の措置など、国において必要な措置をお願いしたい。
- 効果的な活動が継続的に行われていくためには、学校の教職員、地域住民等の共通理解が必要である。そのためには、活動に関する広報・啓発を図る情報発信、活動の情報共有を図る場や研修機会等の設定が重要であり、国において必要な財政措置をお願いしたい。